

地区の

ひろば

ペルーよりの書簡

地区世界社会奉仕委員会

拝啓 風薫る五月、久方振りに自由と平和の国、日本の地を踏みしめました。

ギネス級の長いペルー日本大使公邸での天皇誕生日レセプションから解放されほっとしているところです。この事件の間、皆様方には、大変ご心配をお掛け致しました。侵入者の襲撃占拠、人質の部分解放、一味の反発、時には発砲、武力突入などその都度我々人質と同じ様に心をくだかれ一喜一憂されいか程ご心配をお掛け致したか想像に難くありません。

この様に心身共につつがなく生還出来ましたのは皆様のご支援やお祈りのお蔭でございます。

同時に、我々71名が晴やかに家族と再会できました影には最高裁判事のカルロスさんや特殊部隊の方々の尊い犠牲があり、この事に思いはせまずと心がいたみます。

国の発展には、その国の安全性が最低のインフラでありテロなど絶対に許すべきでなく、又許すことがない様になければなりません。

脱出後の第一声に「自由の空気を吸えることが何より」と言いました。実際公邸の窓ごしに鳥はどこにでも飛んでゆけていいな仲間と言ったものでした。

シブリアニ大司教は、邸内ミサで、自由と人間の尊厳は、法律を超えるものであると訴え、その為に四六時中、身を粉にして真摯なる態度で対応してくれました。保証人委員会、国際赤十字のメンバーの方々も誠心誠意努力してくれました。

日本政府が終始一貫平和解決を訴え続けてくれた事は、我々人質にとっては、最後まで平静を保ち安心感をいただくことが出来る結果になりました。

更に会社が家族と一体となり支えて下さったことです。現地と日本側での徹底した24時間体制をしいて頂きました。

対策本部はもとより関係された皆様方から公私分かつご支援頂きましたことに感謝申し上げます。今後は、人間にとって「自由」とは何かということを考え、これからの生活に生かしてゆくことが犠牲になられた方々やご支援ご声援頂いた方々へのせめ

でものお返しと考えております。

直接お会いしてお礼を申し上げるべきところですが、今少し休養をとらせて頂いておりますので本書をもちましてご挨拶に代えさせていただきます。

敬具

平成九年五月吉日

ペルー 松下電器(株)

ナショナルペルーアーナ(株)

滝 滋

追伸 ペルーへの帰任は、五月末を考えております。



1996~97年度『海のRYLA』報告

地区青少年活動委員長 板垣美一(大阪住吉)

初級海のRYLA 実行委員長 的場勝彌(大阪うつば)

1996~97年度海のRYLAは、磯の香りと若葉青葉の緑もすがすがしい府立青少年海洋センターで、多くの皆様方のご協力を得て、登録ロータリアン全数276名(内参加102名)参加青少年108名にて、天候にも恵まれ成功の内に無事終了することが出来ました。

本年度は当うつぼクラブがこの行事をホストするにあたり、何をテーマにしてどのようなセミナーにするかと言う事の検討から始めました。当初この問題の検討に可成の長時間を要しましたが、私達にとって最も身近でしかも重要な問題である環境問題を採り上げることにしました。これをベースとしてセミナーの期間を通して色々考えてみようということになり、テーマを「ふれあおう 豊かな自然 とりもどそう青い海 蒼い空」と決定しました。

テーマと同時に、最初の記念講演についても、誰を講師にお願いするかが大きな問題でした。青少年を対象としたセミナーですから、若くて夢のある人、しかもテーマとした環境問題に関連する話ができ、

また会場が海洋セミナーですからできることなら海に関係した人という条件で、太平洋ヨット単独横断の世界最年少者 高橋素晴君を選びました。幸い高橋君の都合もよく、講演依頼を快く承諾していただきました。

テーマと講師が決まったことにより、スタートで多少時間がかかり戸惑った準備は、以後比較的スムーズに進展しました。参加者の募集段階では、当初PR不足もあり参加者が思うようには集まらず心配しましたが、その後皆様方の絶大なご協力を得て徐々に増加し、最終的には予想を上回る人数が集まりました。

100名を超える青少年参加者が集まった段階で、今回のライラの成功を確信しました。今回ライラをどう評価するか、実施にあたり当クラブが重点を置いていた次の三点を中心に振り返ってみたいと思います。

まず第一に、ライラ本来の目的である参加青少年のトレーニングが十分にでき、ライラとしての成果を挙げることが出来たかどうかという点であります。二泊三日の短期間ではライラが本来想定しているような内容豊富なプログラムを実施することはできませんので今回はグループ内でのリーダーシップトレーニングが十分に行なわれ、グループ活動が活性化することを目標としました。そのために、今回は特に青少年の自主性を尊重し、出来るだけ自由放任にする代わり自己責任を自覚してもらおう方針で臨みました。

その結果、最初の段階から参加した青少年はグループ内で互いに融和し、それぞれリーダーシップを発揮して盛り上がったグループ活動が行なわれていたと思います。活発な討論、グループ別でのアイデアのまとめ方や発表など、どれをみてもそのことはよくわかり、全体の成功につながっていったと思います。



次に第二点として、参加者が楽しく過ごせたかどうかであります。いくらトレーニングが目的であるとはいえ、楽しいものでなければ盛り上がりには欠け、積極的に参加したいという意欲も湧いてきません。今回特に何かの仕掛けがあったわけではありませんが、青少年のみならず、参加したロータリアンも全

員楽しい三日間を過ごすことが出来、参加した満足感を得ることができたと思います。

最後に第三点として、ただ単に楽しかった、良かったというだけではなく、内容的に充実した、一本筋の通ったセミナーにしたいということでした。それは知的なものを探求する楽しさでありたいという事ですが、今回は環境問題を考えることによってこの欲求は満たされたと思います。これをベースとして全てのプログラムを組み立てていきましたが、今回新しい試みとして実施した砂浜ウォッチングも、環境問題の延長線上の行事でした。これについては海洋センターは豊富なノウハウの蓄積があり、センター指導者のご協力を得て大変意義のある野外活動が出来ました。

テーマ討議の際のグループごとの意見発表でも、若い人たちがセミナーの期間を通じて真面目に、真剣に環境問題に取り組んでいた様子がうかがえました。環境問題については抜本的な解決方法を見付けるのは困難かも知れませんが、各人の日頃のちょっとした心掛けが多いに役立つ問題でもあります。今回のライラに参加することによって何等かの問題意識を持って帰り、このことが将来社会に役立つ活動をする際の糧となるなら、このライラを開催した意義も更に増すものであり、ホストをした私達も大きな充実感を得ることが出来たと思います。

以上、今回当クラブが海のライラをホストするに当たり、どのような考え方により取り組んだか、そしてその成果はどうであったかということを中心に報告致しました。

このライラ実施につきましては、中川ガバナー、地区青少年奉仕部門担当の松本バスターガバナーのご出席を賜り、並びにご指導、ご協力頂きました板垣地区青少年活動委員長はじめ委員の方々、そして参加クラブ、参加者の方々に感謝とお礼を申し上げ、ご報告と致します。

尚、今回のライラ参加者の内、当クラブの地元である西区より、地域社会に於いて、青少年の指導に当たっておられる、西区青少年指導員連絡協議会理事(井波良幸氏)、西区子供会少年会連合協議会会長(福谷泰佐氏)、同鼓笛部長(柴田耕造氏)に参加して頂き新世代会議の一環と致しました事を付け加えさせていただきます。

